

常任理事 会担当者	委員会名	委員長	令和6/7年度抱負と課題 (字数制限はありませんが50-200文字程度を目安にご記入ください)
小田	理事会・拡大常任理事会	小田 義直	理事長として特に1. リサーチマインドを持つ病理医育成、2. 国際志向性に富んだ病理医育成、3. 病理専門医数の増大の三点に重点を置き、その実現に向け理事会・常任理事会を運営してゆく。病理専門医数の増大に関しては、全国的な剖検数の減少と、専攻医登録者数の伸び悩みがリンクしているようなので、その対策を早急に講じてゆく。ダイバーシティを考慮しサステイナブルな学会活動を維持するため、各種委員会やワーキンググループに積極的に女性や若手を登用して運営してゆく。
豊國	倫理委員会	谷田部 恭	・日本医学会による「学術集会への演題応募における倫理的手続きに関する指針」の改訂に伴い、2024年度以降の病理学会学術集会の演題登録についての基準を作成する。 ・剖検症例の研究使用についての病理学会指針を策定する。 ・学術研究に際しての個人情報保護法の問題については倫理指針と関連しているが、大学・国立研究開発法人以外では異なることから、それ以外に所属する会員へ情報発信していきたい。
大橋	COI委員会	大森 泰文	COIや倫理に関する問題は、その多くが手続き上の形式的なミスによるものであるが、しばしば関係者に重大な結果をもたらされる。会員の研究成果やその他の業績が些細な配慮不足でその価値が棄損されないよう、注意喚起をしていく。
豊國	個人情報及び匿名加工情報取扱い委員会	谷田部 恭	・JP-AID事業が終了し、その後のデータ利活用の公開に際しての確認も完了したため、R6年を最終年度として委員会の終了を検討する。
	学術評議員資格審査委員会	伊藤 智雄	委員の連携により、学術評議員内規に基づいた公正で適切な審査を進めてゆく。 合わせて、問題点などがあれば適宜改善に努めてゆく。
	功労会員・名誉会員資格審査委員会	古川 徹	規定に従い名誉会員の審査ならびに功労会員の候補者の資格審査を行い、適切な候補者を推薦する。
大橋	企画委員会	大橋 健一	学会の発展に資する総務的な種々の事項を立案・検討する。学会の将来構想、機構改革、その他の委員会に属さない重要事項につき検討する。理事会、委員会活動の活性化のため、女性、若手の登用等の対策を積極的に進める。会員、専攻医増加のための対策を検討する。剖検数減少に対する対策を検討する。
	DEI推進委員会	樋田 京子	本委員会では女性のみならず、地域、職場、家庭環境など、様々な背景を持つ本会員の多様性を認め、本会の事業に自発的に参加しやすいように一人一人に適した環境を整備するとともに、誰もが本会の発展のために活躍出来るような機会を提供することを目的とします。本委員会はDEI推進のための課題の把握とその対策に関する業務を行う予定です。そのために本会事業への参加の推進及び必要な啓発活動、本会の事業に関する課題の把握及びその対策に関する業務を行っていきたく思います。
	登録衛生検査所等における「病理診断」に関する検討委員会	大橋 健一	登録衛生検査所等における病理診断に関わる諸問題を整理し、対策を検討する。保険医療機関間の連携病理診断を広げるための方策を検討する。日衛協代表との交流、意見交換を進める。
	会員システム検討WG	中黒 匡人	現在の会員システムの問題点を検討し、新システムに必要な機能を検討していく。
	支部委員会	久岡 正典	7支部における今日の活動状況について情報を共有し、その中で有意義な取り組みや参考となる運営方法などを、各支部で活用を図るべく提供すると共に、課題が存在する場合にはその解決策を探る。各支部での病理医のリクルートや会員の生涯教育等に資する活動を引き続き支援していく。
	財務委員会	大橋 健一	学会の財務基盤の安定性が維持されるように努める。財務の視点から、学会の発展のための課題、将来構想を検討し、適切な支出をする。会員システムの変更などシステム関係に大きな出費が今後予想されるが、適切に対処する。
都築	国際交流委員会	都築 豊徳	現在行っている国際交流事業の継続を行う。更には人的なつながりを深くする努力を行う。 若手病理医が留学を目指すための手助けとなるような行事を開催する。
田中	学術委員会	田中 伸哉	1)学術委員会の重要な任務の1つは、各学会賞の決定である。日本病理学賞、診断病理学賞、学術研究賞、症例研究賞について各賞の意義を再確認しながら、円滑に選考を進め、受賞者および学会が更に発展するように役割を果たしたい。(2)総会、秋期特別総会のあり方も学会の学術活動のコアである。特に英語化、国際化については他学会の様子を踏まえながら病理学会としてのあるべき姿を模索していきたい。
牛久	編集委員会	牛久 哲男	学会刊行物の編集・発信の安定した運営に努める。会員の診療、研究活動に役立つ情報を提供し、随時アップデートを行う。
田中	PI刊行委員会	田中 伸哉	PINの円滑な査読を行い、インパクトファクターが上がる様に尽力していきたい。2023年のIFは2.2であり、前年から0.079増加とほぼ横ばいであった。順位はPathologyの分野の全72雑誌中53位から45位へと上昇した。
	PI常任刊行委員会	田中 伸哉	PINは学会の英文機関誌であるので、質の高い病理学研究成果を数多く掲載して、会員自身が研究成果を是非PINに投稿したいと考えるようなプレゼンスにしていきたい。現在初回判定まで9日と非常に短時間で査読が行われており、迅速な審査を心掛けたい。
牛久	「診断病理」編集委員会	牛久 哲男	会員にとって有意義な総説の企画、掲載を充実させる。投稿規定等の見直しを行う。診断病理の電子化とそれに伴うDOI付与を完了する。
	病理専門医部会会報編集委員会	池田純一郎	『診断病理』の発刊に合わせて年4回の会報を発行する。専門医制度に関わる最新情報を専門医・専攻医の皆様へ周知するとともに、各号の特集記事、各支部学術活動報告を含め、充実した内容を盛り込んでいきたい。
	剖検情報委員会	宇於崎 宏	過去から引き継いでいる、剖検情報の収集と活用、剖検報の編集に、引き続き努めて参ります。本委員会でもICD-11の日本での活用状況に対応して参ります。
都築	癌取扱い規約委員会	都築 豊徳	委員の若返り及び女性参画を促進する。ICCRとの協力体制を継続し、国際的に通用する規約作成を目指す。規約改正の情報早期に会員に提供できる体制維持に努める。
	小児腫瘍組織分類小委員会	井上 健	代表的な希少がんであり、時に病理診断が難しい小児腫瘍について、症例検討会や教育講演を行うとともに、小児腫瘍のWHO分類が新たに刊行されたことを受け、小児腫瘍の病理診断に関して「小児腫瘍病理診断の手引き」を公開する予定である。また、「希少がん診断のための病理医育成事業」とも協働しつつ、小児病理医の育成に注力していきたい。
	日本病理学会領域横断的がん取扱い規約検討WG	渡邊 麗子	癌治療学会では、領域横断的癌取扱い規約検討委員会の新委員長、新副委員長が決まり、令和6年2月19日の理事会で領域横断的がん取扱い規約第二版の改訂計画内容が承認された。4月には病理学会を含む関係学会からの代表委員が集まって第2版改訂作業の具体的な作業工程を立案し、令和6年度中の出版を目指す。
金井	病理診療ガイドライン委員会	金井 弥栄	領域横断的がん取扱い規約・AIガイドライン・ゲノム研究用診療用病理組織検体取扱い規程等、各種診療等のガイドラインの適正な作成を行うための、基盤整備を行う。極力フォーマットを統一し、重複を最小限にし、現場の実用に資するガイドラインとなるよう、利便性の向上を目指す。また各策定委員会に関して、適切な利益相反管理を行う。
	病理診断支援AIの手引き策定WG	吉澤 明彦	近年の病理診断領域におけるAIの広がりを背景に、本WGでは「病理診断支援AIの手引き」を策定、発表してきた。本WGでは、自由な研究の領域は確保しつつ昨今のAIの適切な利用のあり方を念頭に時代に即した内容を今後も定期的に提案していくことを目標とする。一方でAIは多様化しており、2023年度後半から開発経験をもち若い世代の委員を招聘したが、スピード感をもって発信することが一つの課題である。
	ゲノム診療用病理組織検体取扱い規程策定WG	畑中 豊	初版発出から数年が経過したため、新規実証データやRWD等に基づき診療用規程の改訂を行う(前期から改訂作業継続中)。令和4年度に発出した「がん全ゲノム解析等のための検体取扱いガイドライン 第1版(暫定版)」について改訂を検討する。
	固形癌HER2病理診断ガイドライン策定WG	金井 弥栄	「固形癌HER2病理診断ガイドライン 第3版」の編集・公開を行う。承認・適応拡大等が出来た場合には、日本病理学会員への速やかな情報伝達に努める。
牛久	用語委員会	伊藤 智雄	適切かつ統一された用語の使用は重要であり、適宜ミッションを確実に履行し、適切な用語の定義等の策定に努める。
豊國	研究推進委員会	増本 純也	基礎医学としての「病理学」だけでなく、臨床医学を支える「病理診断」においても、急速に発展する分子生物学、生化学、遺伝学、免疫学、AIなどの情報技術の知識へのキャッチアップが重要な課題です。このような病理学会会員のニーズに応えるべく、病理学会カンファレンスで先端研究や先端技術を紹介し、ひいては、一般会員のみならず、医学部学生にもリサーチマインドに溢れた「病理学」の魅力を伝えたいと思います。
	研究委員会	豊國 伸哉	研究委員会が掌握する日本病理学会として取り組む研究事業に関して適切な運営が行われているかどうかを管理・指導する。個人情報や匿名加工情報の取り扱いを適切に実施したい。JP-AID DB推進事業ならびにSCRUM Japanとの共同研究が開始しており、病理学会のさらなる発展のための環境作りを推進する。
	JP-AID DB推進事業WG	倉田 盛人	およそ9.6万症例分の病理デジタル画像(Pathology-Whole Slide Imaging: P-WSI)を収録した「日本病理学会デジタル画像データベース」を維持・管理を行う。現在までに、病理学会会員は無料で検索・閲覧出来るシステムが構築されているが、生涯教育などに利用可能であることを学会員に広く情報共有を行う。また、利用者は希望に応じてP-WSIをダウンロードしてAI研究等に利用することが可能であるが、さらなる利便性を向上させたデータベースに移行させる。
佐々木	希少がん病理診断支援検討委員会 (※希少がん診断のための病理医育成事業)	佐々木 毅	2024年度は国庫補助金として、3,500万円の予算をいただき、新たに希少サブタイプとして消化器と呼吸器を加え、10領域(骨軟部、脳腫瘍、小児腫瘍、リンパ腫、頭頸部、皮膚腫瘍、希少サブタイプ-乳腺、希少サブタイプ-婦人科、希少サブタイプ-消化器、希少サブタイプ-呼吸器)で、全領域による希少がん病理診断講習会を4回と希少がんEラーニング問題全領域での作成を行う。またエキスパート育成講習会については、10領域すべてで行うことを計画している。さらに2025年度予算獲得に向けて、厚労省に対して新たな事業計画案を希少がん病理診断支援検討委員会にて検討する。
金井	ゲノム研究用病理組織検体取扱い規程策定委員会	金井 弥栄	病理組織検体をゲノム等オミックス研究に資する品質を保持して収集・保管することで、日本病理学会員が次世代のゲノム医療を創出する研究に貢献できるよう、病理組織検体取扱い手順を標準化する。新規に普及したオミックス解析手法に対応するように、現行の規程を実証解析に基づいて改訂し、研究基盤整備における病理学の意義を日本病理学会外にも発信できるようにする。
豊國	SCRUM-Japan MONSTAR-SCREEN事業検討WG	谷田部 恭	・パイロットスタディーを立ち上げ、病理学会会員が利用するにあたっての概要・課題を得る。 ・具体的な道筋を立てた後、会員に公募し研究を募る。必要に応じて推薦枠を設ける。 ・研究の進捗を管理し、SCRUM・病理学会への報告を行う。

常任理事 会担当者	委員会名	委員長	令和6/7年度抱負と課題 (字数制限はありませんが50-200文字程度を目安にご記入ください)
森井	病理専門医制度運営委員会	森井 英一	日本専門医機構と連携しながら、病理専門医研修プログラム、専門医認定試験、資格更新の運営と改善を図り、質の担保された専門医制度を実現する。さらに病理専門医数の向上を目指した制度設計を図る。
	病理専門医資格審査委員会/更新委員会	中黒 匡人	審査の作業手順が徐々に複雑になってきており、審査の効率化、将来のリモート審査の方向を見据え、更新審査でも電子化を進めたい。受験資格審査は順調に電子化が完了している。
	病理専門医試験委員会	柴原 純二	WSI等を活用した新たな形式での専門医試験が定着した。引き続き試験の質を担保の上、円滑な試験運営を目指すとともに、従来の様式を引き継いだ現状の試験の内容について検討を行い、必要に応じて改善を行う。
	病理専門医試験実施委員会	非公開	
	病理専門医施設審査委員会	坂谷 貴司	施設認定については、認定施設A、B、S、登録施設、研修協力施設の区分で長らく行なっているが、専攻医養成なども鑑み「認定教育施設」として新区分の制度設計を行い、周知後、2年間の任期内に施行する。学会による認定施設と専門研修プログラムにおける基幹・連携施設の位置づけについてわかりやすいものとしたい。
	病理専門医研修プログラム審査委員会	大橋 健一	プログラムの改定について、各プログラム責任者に適切に情報を伝え、スムーズに審査を進める。全国的な剖検数の低下に対しても、できるだけ病理専攻医の定員が下がらず、志望者の減少が起きないように対応する。
佐々木	分子病理専門医制度運営委員会	佐々木 毅	分子病理専門医設立当初より検討課題に挙げられていた、病理医以外の他領域への分子病理専門医認定に関してWGを立ち上げ、検討する。また、講習会に関して、分子病理学に関する基礎的な内容と、分子病理専門医を取得した後の高度な内容とが、1つの講習会で進められているなどの課題があり、目的別に、分子病理専門医講習会、分子病理専門医更新講習会、分子病理診断講習会-分子病理を学びたい人のために-の3つの講習会に分類して行う予定である。
	分子病理専門医研修委員会	西原 広史	本委員会では、分子病理専門医認定のための研修カリキュラムの策定、編集を行う。また検査制度の変更に伴って、必要な改訂を行う。さらに、今年度からは、分子病理診断講習会を企画し、病理診断を目的とした遺伝子検査の臨床実装に向けた教育啓蒙活動を開始する。
	分子病理専門医資格審査委員会	畑中佳奈子	分子病理専門医更新申請の電子化を行い、分子病理専門医に関する申請と審査の電子化をさらに進める。また、分子病理専門医研修委員会と連携し、分子病理専門医更新講習会のプログラム作成を行う。
	分子病理専門医試験委員会	前田 大地	ゲノム病理学的な知識に関するリテラシーの向上につながる試験の構築を目指す。日々刻々と変わっていくゲノム医療に即応できるような体制の整備が課題である。
	分子病理専門医試験実施委員会	非公開	
	分子病理専門医認定拡大検討WG	佐々木 毅	分子病理専門医制度立ち上げ当初から計画されていた、「認定制度開始、5年後くらいをめどに、認定を病理医以外にも枠を広げる」に関してWGを立ち上げ、検討する。
森井	口腔病理専門医制度運営委員会	清島 保	より社会ニーズに合うよう、分子病理学的見地も加えた「口腔病理学の発展ならびに口腔病理診断業務の普遍的な提供」についての検討を引き続き行う。専門的知識・経験に基づいた社会貢献や自らの知識・技能の向上に関し、関連する委員会の助言・協力の上、口腔病理医が自己研鑽を続けて社会へ還元できるように教育等の環境整備とその改善を図る。
	口腔病理専門医試験委員会	入江 太郎	①人再現性・異時再現性の高い病理診断が行い得る良質な標本・症例を用いること、②現場で遭遇する頻度が高い症例を用いること、③Subspecialityとして相談を受けることが実際にある症例を用いることを方針としつつ適切な試験が実施される様図りたい。また、病理解剖経験の少なさを補い得る様な教育研修体制の整備についても各委員会との連携協力を努めたい。
	口腔病理専門医試験実施委員会	非公開	
	口腔病理専門医資格審査委員会	美島 健二	口腔病理専門医試験の資格審査については、試験申請要綱に則って適切かつ確かな運用を行いたいと考えております。本年度は新基準に則った資格更新の3年目(5年で全面移行)にあたります。昨年同様、本年度の更新予定者を対象にWeb説明会を実施し、丁寧な運用を進めたいと考えます。
	口腔病理専門医制度基盤整備WG	森 泰昌	口腔病理学の発展ならびに口腔病理診断業務の普遍的な提供を目的とし、口腔病理専門医の継続的な輩出と社会的貢献のため、研修システムの在りかたや全国の歯科大学以外の口腔病理医の在籍状況についてリスト作成など引き続き検討する。加えて関連する機関との連携等口腔病理の認知度向上についてのWG案を作成し、口腔病理専門医制度運営委員会へ提出する。
佐々木	医療業務委員会	佐々木 毅	・タスクシフト・シェアに関して具体的な検討を行う。・病理解剖に関して、病理学会としての新たな見解を示す(臨床検査技師に対して、厚生労働省が厚生労働大臣名で「死体解剖実施者」などの称号で、病理解剖を(単独で)行うことができる資格付与を検討していることへの対応を行う。・デジタルパソロジーの導入に伴い、ガラス標本等の保管に関する病理学会の見解を示す。・病理解剖後のホルマリン等に浸漬された臓器の返還要求に関して、厚生労働省の病理解剖指針には、「遺族からの要求があれば返却しなくてはならない」とあるが、返却に関する病理学会としての見解、方針を示す。・病理診断報告書、細胞診断報告書、病理解剖報告書の患者への提示、提出に関して、病理学会としての方針を示す。
	コンサルテーション委員会	久岡 正典	令和6年度から稼働開始となる日本病理学会・国立がん研究センター病理診断コンサルテーションシステムの円滑な運営と管理を行い、会員の日常の病理診断を引き続き支援すると共に、我が国の医療の均てん化と質向上に一層貢献する。
	社会保険委員会	佐々木 毅	・令和6年診療報酬改定での積み残し課題に関して、令和8年診療報酬改定での要望等について検討を行う。・個別の診療報酬改定の項目とは別に、病理診断科診療所開業の際の「保険診療が全くできない6か月問題」の解決をはかる。
	精度管理委員会	孝橋 賢一	病理診断の客観性を保ち、信頼あるものとするためには精度管理は欠かせないとする。現在、免疫組織化学染色のみならず、がんパネル検査における検体管理など、課題は多岐にわたっている。当委員会では、NPO法人日本病理精度保証機構や他学会と連携し、それら課題に取り組んでいく。
	剖検・病理技術委員会	牛久 哲男	剖検数の減少傾向が続き、専攻医や病理専門医が経験できる症例数が限られてきている。剖検の重要性は変わらないため、一定の剖検診断レベルが維持できるように引き続き講習会の充実等に努める。
金井	ゲノム病理診断検討委員会	金井 弥栄	がんゲノム医療等に関して厚生労働省が行う施策等に対し、日本病理学会から適切な提言を行う。ゲノム医療の実装に伴い、病理診断学がゲノム情報を取り込んで変革を遂げるべき方向性について議論を深める。国際標準化機構ISOにおける外科病理診断のガイダンス文書策定に対し、日本病理学会から意見を発信する。
佐々木	診療関連死調査に関する委員会	羽賀 博典	一般社団法人日本医療安全調査機構の医療事故調査・支援センターの協力学会として、病理解剖を含む個別調査が円滑に進むように協力する。また診療関連死調査に関する情報について、各支部を通して会員の皆様と共有したい。
	デジタルパソロジー・医療情報委員会	吉澤 明彦	診療報酬上、デジタルパソロジー(遠隔病理診断を含む)を用いた病理診断は、「デジタル病理画像を用いた病理診断のための手引き」、「病理診断のためのデジタルパソロジーシステム技術基準」に準拠して行われなければならない。近年、医療情報の管理は厳しくなっており、本委員会ではこの2点の改訂、発表をおこなう。一方デジタルパソロジーは病理医不足を補う技術であるにもかかわらず広がりは限定的であり、様々な観点から解決策を提言する予定である。
	病理診断・臨床検査あり方検討委員会	鶴山 竜昭	病理診断・臨床検査室の標準化および新技術導入に関する国内外のさまざまな取り組み、国際規格・ガイダンス・ベストプラクティスの策定に、日本病理学会が積極的に参加、発信できるようにしたいと考えています。
	病理解剖資格に関する合同WG	佐々木 毅	現在、厚生労働省の班研究として検討が行われている、病理解剖の検査技師への資格付与に関して、日臨技との合同WGを立ち上げ、検討し、提言を取りまとめる。
田中	広報委員会	笹島ゆう子	(1) 社会への情報発信: 学会HP内一般向けページのブラッシュアップ、SNSの効果的な利用、公開展示やパンフレットの作成・配布などを通じて社会における病理学の認知度向上を目指す (2) 会員向けの情報発信: 各種情報の共有を円滑に行い、会員の利便性を考慮した学会HPの構築を目指す。 (3) (1)(2)を目的とするHPリニューアルのためのWGを立ち上げる
	社会への情報発信委員会	伊藤 智雄	市民、学生、初期研修医向けの様々な情報発信を強化する。具体的には病理学会総会など様々な機会を活用した市民展示、各種パンフレットを作成する。新たな情報発信の手段とコンテンツについて検討し、実現に向けて提案・努力する。
	病事情報ネットワーク管理運営委員会	宇於崎 宏	テキストファイルと共にバーチャルスライドデータを含む画像が投稿可能な、病事情報ネットワークセンターの安定した運用に引き続き、注力して参ります。
金井	教育委員会	金井 弥栄	治療指針を豊富に提供しうる病理診断学と、広汎な研究領域にプラットフォームを提供する基礎医学としての病理学の真価を、学部学生に浸透させるための卒前教育のあり方について、継続的に議論する。病理コア画像の充実に努める。
豊國	病理医・研究医の育成とリクルート委員会	宮崎 龍彦	この度、病理医・研究医の育成とリクルート委員長を豊國伸哉先生から引き継ぐこととなりました。病理専門医取得者数の減少が危惧されている中、非常に重要な仕事を担当すること、身が引き締まる思いです。まずは社会への情報発信委員会や広報委員会とも協力して、学生・若手医師に病理学を知ってもらい、興味を持ってもらう、そして病理医、病理研究者を目指してもらおうという三段階を入口として、それに続く若手育成についても若い人たちの希望を聞きながら進めていきたいと思っております。何卒宜しくお願い申し上げます。
金井	病理診断講習会委員会	谷野美智枝	病理診断講習会は「病理専門医の生涯教育」と「病理専門医を目指す若手病理医の診断力の向上と知識の整理」を目的としています。日本病理学会総会における重要な企画であり、学会参加者に人気の高いプログラムです。これからも、若手からシニアの幅広い病理医の先生たちに興味を持っていただけるような系統的*臓器別講演会を開催していきたいと考えています。どうぞよろしくお願いたします。
	海外研修委員会	黒瀬 顕	新型コロナウイルス感染の蔓延により中止していたハンガリー Semmelweis 大学での病理解剖研修は、2024年度夏から再開することとなった。Semmelweis 大学の担当者は Department of Pathology and Forensic Medicine の Kiss 教授が新たに担当することとなった。既に学会ホームページ上で再開の案内を行っており、程なく正式な募集を開始する予定である。また病理学会期間中に当コース参加者の懇親会を継続して行う予定で、参加後の交流も当コースの意義としたい。

常任理事会 担当者	委員会名	委員長	令和6/7年度抱負と課題 (字数制限はありませんが50-200文字程度を目安にご記入ください)
金井	生涯教育委員会	相島 慎一	生涯教育委員会では、会員が生涯にわたり病理学に関する知識を広げ、技能を磨くための継続的な学習制度を確立する。これまで構築している組織診断に関する生涯教育 e-learning、病理診断講習会および剖検講習会の標本提示を中心として、細胞診断などを含めてより一層コンテンツを充実させ、病理診断能力の質を担保するような生涯教育サイトを構築していく。
	診断病理サマーフェスト委員会	矢持 淑子	診断病理サマーフェストは、「病理と臨床の対話」という副題にもあるように、病理医だけではなく各科臨床医や放射線科医との対話を通じ、多方面から病理診断を系統的に考えられる、独自性のある講習会となっています。今年で18回目となり、テーマとなる臓器も2クール目に入っています。今後のテーマの検討、そして円滑な運営や開催を目指していきます。
	ゲノム病理標準化講習会委員会	金井 弥栄	ゲノム研究用病理組織検体取扱い規程の内容、組織バンキングの実際、ゲノム研究の具体的な成果について解説する「ゲノム病理標準化講習会」を開催することで、分子病理専門医が研究基盤整備に貢献することの意義を周知する。ゲノム研究における病理学(病理医)の役割を周知するべく、日本病理学会外への発信にも努める。
大橋	北海道支部	樋田 京子	第1期目になります。これまでに実施したWEB併用形式も活用して、セミナーを企画・開催する計画です。また6月には合宿・対面形式で、病理夏の学校を開催する予定です。支部会の発展と若手病理医の育成に尽力したいと思います。
	東北支部	大森 泰文	会員間の意見交換の活性化と若手の活躍への支援に注力する所存である。また、今年度より定例の支部集会を1回増やし、12月に研究成果を演題としてオンライン形式で開催することになった。これが軌道に乗るように鋭意努力したい。
	関東支部	笹島 ゆう子	年4回の学術集会(第102回:5月25日獨協医大、第103回:10月19日筑波大、第104回:12月7日東邦大、第105回:3月頃、世話人未定)およびサマーセミナー(8月17日日大)を予定しています。基本的には対面とオンラインのハイブリッド開催とし、多くの会員が自由な形で参加できる会を目指します。サマーセミナーは対面・懇親会付きで開催し、医学生や初期研修医へのアピールを強めます。
	中部支部	宮崎 龍彦	村田哲也先生の後任として、日本病理学会中部支部を担当することになりました。中部支部は、支部交見会・スライドセミナーの他、東海病理医会(ワカロウ会)や北陸病理集談会など、暖かい雰囲気診断病理をともに学ぶ場を多くもち、会員相互の風通しもよい、素晴らしい空気を持っています。これを絶やささないよう支部長として頑張っていきたいと思えます。よろしくご指導ご鞭撻のほどお願い申し上げます。
	近畿支部	羽賀 博典	学術集会の一部で、参加者の利便性を考慮して、Webでの開催を復活させる予定である。逆に、昨年までWebで開催していた「病理夏の学校」は、令和6年度から対面開催の再開を予定している。症例検討の内容が高度化し、気軽に演題が出しにくいという声もあり、昨年度から気軽に演題を出せるセッションを設けたが、その活用が今後の課題である。
	中国・四国支部	増本 純也	中国・四国支部会員の知識を更新し、日々の診断業務に役立つ教育セミナーを充実させ、学術総会では学術交流を推進し、会員相互の共同研究の機会を提供したいと思います。夏の学校では学生や初期研修医にリサーチマインドに溢れた病理学の魅力とそれらが具現化された刺激的な病理診断の魅力を伝えたいと思えます。
	九州・沖縄支部	久岡 正典	当支部定例の活動である「九州・沖縄スライドコンファレンス」を年6回、対面あるいはWEBで開催する。また、それに付随して学術講演・教育セミナーを年2回計画すると共に、第400回の記念となる会では特別な催しを企画する。恒例の夏の病理学校を開催し、病理医のリクルートに引き続き尽力する。
小田	監事	伊藤 浩史	私は昭和61年に宮崎医科大学(現宮崎大学医学部)を卒業後、一貫して病理学研究、教育、臨床に携わって参りました。定年退官まであと2年となり、お世話になった病理学会への最後のご奉公として、理事会業務や財務状況の把握等、病理学会会員の皆様の代わりとなって監視役を果たしたいと思います。何卒よろしくお願い致します。
	監事	九嶋 亮治	一般社団法人における監事には「理事の職務執行の監査を行い、監査報告を作成する」「理事が作成した会計書類、事業報告等を監査する」役割がございます。長らくお世話になった病理学会への恩返しのためしっかりと努めたいと思えます。